

《合格体験記》

皆さんこんにちは。桂一葉です。私は、2023年9月から台湾の国立臺南大學文化與資然資源學系に進学します。

まず、私の校外での活動について話します。中学1年生から6年間、中国新聞平和メディアセンターでジュニアライターとして活動していました。主に被爆者、ICAN、ASEAN、JICAや広島市長など数えきれない多くの方に平和に関する取材をし、定期的に朝刊へ記事を掲載していました。

もう1つの活動は、平和記念資料館のピースクラブで平和学習をし、資料館で展示物や平和公園で慰霊碑などを説明したり、紹介動画を作成するなどの活動をしていました。

また、中学生の時1人でアメリカへ留学し、日本とは違う視点での平和や核、戦争について学びました。

このような様々な貴重な経験を通して、私はとても歴史、特に第二次世界大戦前後、に興味を持ちました。今まで私が学んできた歴史は、日本から見たものであり、海外から見た日本というのはどのようなものなのか、そこに興味が湧いてきました。

台湾は当時、日本人として共に戦っていました。戦後、日本から解放された今日、なぜ台湾の人々がこのように親日であるのかも学びたいと思い、日本統治時代の景色が多く残っている臺南で学ぼうと考えました。

語学に関しては、中学生の頃から中国語に興味があり、高校に入ってから本格的に中国語を学び始めました。台湾への進学を決めた高校2年生2月以降は、週6日、1日3時間の中国語のレッスンを受けていました。そのおかげで、大学の基準を大きく上回る語学資格を取得し受験に臨むことができました。

学校の成績はご想像におまかせします…

しかし、校長先生を始め、伊藤克典先生、廣兼先生、稲田先生、大石先生は上記のような校外活動をいつも評価し、応援してくれました。また、海外進学を決めてからも、引き続き先生方の応援、サポートを十分にいただき、おかげさまで合格することができました。

台湾の大学進学は強みをより伸ばす教育を行うため、日本の大学進学とは仕組みが異なります。

主に書類審査になるので、学校の成績も必要ですが、自分が誇れる何かを自信をもってアピールすることも重要となります。

臺南大學の例を紹介します。

- ・自伝 1500字
- ・留学計画書 2000字
- ・研究計画書 3000字

自伝とは自分について自己PR文のようなものですが、日本特有の謙遜は捨て、自己肯定感を最大限に高め、家族や周囲からの影響や今までの経験からわたしはこのような素敵な人となりましたとアピールします。

留学計画書は大学HPなどから履修科目を探し、何年生でこの科目を学びたい+その理由。そして、それを学んだから次の年にこの科目を学びたい+その理由…といったように4年間の計画を文章にします。

研究計画書は通常は大学院入試などで用いられるようですが、臺南大學では学部入試にも用いられています。

学部生としてどんなことを研究したいか、なぜそれを研究したいのか、そのために入学前にどんな研究準備をするか、入学後の研究手法など、参考文献リストも含め細かく計画書を作成します。

もちろんすべて中国語で、小手先だけで完成させることの出来ない難題でした。大変多くの時間を費やしましたが、生い立ちや経験をしっかり振り返り、周囲からの影響によって現在の私がどのようであるか、また自身の意見や考えを具体化でき、どう将来に繋げていきたいかを確立できるよい機会にもなりました。

人と違うことをすると、不安で時に周りから嘲笑されることもあります。

それにも負けずに継続することで、必ず自分の強みとなります。

すべてのことに間違っただ道はありません。

1つしか得意なことがないではなく、海外進学では1つあれば十分なのです。進路選択で壁にぶつかったとき、海外進学の選択肢もあることを思い出してもらえればと思います。

臺南大学に4年間正規留学生として進学するのは正直少し不安です。しかし、やり切ればまた新たな貴重な経験となることを確信しています。

私は今、大学が決まりとてもワクワクし、渡航準備を進めています。皆さんも、素晴らしい未来に向かって日々精進し、そして1度きりの高校生活を楽しんでください！大家加油！